

平成 28 年度
企画展

池田家文庫絵図展

江戸と岡山藩



江戸と岡山藩

Edo and Okayama Han

平成二十八年
企画展

池田家文庫絵図展

- 会 期 平成 28 年 10 月 29 日(土)～ 11 月 13 日(日)
- 会 場 岡山シティミュージアム 4 階 企画展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づく事業である、この池田家文庫絵図展も本年度で12回目の開催となりました。今回も岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムの主催で、江戸と岡山藩をテーマとする展覧会を行います。

本展覧会は、岡山大学附属図書館で保存管理している、池田家文庫（江戸時代岡山藩の藩政資料等のコレクション）を広く地域社会の皆様に公開し、親しんでいただくことを目的に企画しています。展覧会の主な展示資料は「絵図」類で、この地図資料群は池田家文庫の特徴的な資料でもあります。

毎回、様々なテーマで実施している当展覧会ですが、本年のタイトルは「江戸と岡山藩」です。岡山藩も他と同じく、参勤交替で岡山と江戸を1年ごとに行き来しており、そのための江戸藩邸や江戸での役割分担がありました。また、江戸幕府が行う土木事業などの手伝いもありました。このような江戸と岡山藩の関係を、絵図・文書等の資料からわかりやすく紹介します。

この池田家文庫絵図展が、皆様の岡山や日本の歴史理解に役立ち郷土愛を高める助けとなると共に、池田家文庫という地域の共有財産を今後も継承していく契機となることを願ってやみません。

平成 28 年 10 月 29 日

岡山大学附属図書館
館長 沖 陽子

岡山シティミュージアム
館長 大野 明幸

関連行事

Event

オープニングトーク

日 時 平成 28 年 10 月 29 日(土) 午前 10 時～午前 10 時 30 分
場 所 岡山シティミュージアム 4 階展示室
講 師 岡山大学 特命教授 倉地克直氏

講演会「大名家の江戸勤役」

日 時 平成 28 年 10 月 30 日(日) 午後 2 時～午後 4 時
場 所 岡山シティミュージアム 4 階講義室
講 師 学習院女子大学 大学院 教授 岩淵令治氏

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが平成 28 年 10 月 29 日(土)～11 月 13 日(日)まで開催する「企画展 池田家文庫絵図展『江戸と岡山藩』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は図版番号、資料名、池田家文庫整理番号、員数、年代、作者名、法量（タテ×ヨコ、cm）、備考の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。
- 4 展示番号 9.「江戸大絵図」は 10 月 29 日(土)～11 月 6 日(日)、同 10.「江戸外絵図 赤坂・麻布・芝筋」は 11 月 8 日(火)～13 日(日)に展示する。
- 5 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学特命教授 倉地克直が執筆した。編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

「江戸と岡山藩」解説	1
出展資料解説	4
出展資料目録	27
池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録	28

はじめに－江戸のなりたち

天正18年(1590)徳川家康は豊臣秀吉によって関東6か国を与えられ、江戸に居城することになった。慶長8年(1603)家康が征夷大將軍となって幕府を開くと、諸大名は証人を江戸に置き、幕府はその屋敷を城下に与えた。ここから江戸城下町の本格的造営が始まった。しかし、家康が秀忠に將軍職を譲って大御所として駿府^{すんぶ}に住むようになり、大坂には豊臣秀頼が居たため、家康も秀忠もたびたび京都への上洛を繰り返したから、政治の中心が一か所に落ち着くことはなかった。

寛永9年(1632)秀忠が亡くなって、3代將軍家光の「御代始め^{みよはじめ}」となる。寛永12年(1635)武家諸法度が改訂され在江戸交替^{ざいえどこうたい}(参勤交替)が制度化される。これによって江戸は名実ともに徳川日本の首都となる。

A 岡山から江戸へ 参勤交替

参勤交替の制度により、大名はほぼ一年おきに江戸と領地の間を往復した。岡山藩の場合、参勤行列の人数は正確には把握しがたいが、付き添いの家臣や足輕・小者^{こもの}などを含めて数百人にのぼったと思われる。一行は岡山から兵庫までは陸路と海路に分かれたが、兵庫からは総勢が陸路で江戸との間を往復した。京都・江戸間は東海道を通る場合も中山道を通る場合もあった。美濃路・東海道を通過して参府した文化5年(1808)は総距離が181里12丁(約712^里)、中山道を通って帰国した文化6年(1809)は190里14丁(約748^里)、いずれの場合も19泊20日の行程であった。

藩主に付き添う家臣にとっても、農民から取り立てられた小者にとっても、江戸は岡山とはくらべようもない大都会であった。かれらは藩の江戸屋敷に分散居住したが、時には町に出て名所見物に興ずることもあったに違いない。岡山へ帰れば、それが自慢話になった。

B 岡山藩江戸屋敷

岡山藩は江戸にいくつかの屋敷を持っていた。その変遷は『備藩邸考^{びはんていこう}』によって知ることができる。その主なものを紹介する。

本屋敷(上屋敷)は江戸城本丸の東、辰の口の大名小路にあった。これは池田輝政が慶長9年(1604)に家康から与えられたもので、何度も火災に遭いながら、江戸時代を通じて同地に所在した。本屋敷は藩主とその家族の居住の場であるとともに、江戸での藩の政庁でもあった。大名小路をはさんだ向かいに向屋敷があった。この屋敷がいつ与えられたかは不明だが、元和初年(1615)の池田利隆時代のことと思われ、その正室である福照院^{ふくしょういん}が住んでいたことが分かっている。藩主一族や家老の住居とともに、江戸に滞在する家臣のための長屋が所狭しと並んでいた。

築地屋敷は宝永元年(1704)以降に岡山藩中屋敷となった。もとは出羽新庄藩の上屋敷であったものを、それまで岡山藩が麻布土器町に持っていた中屋敷と^{あいたいが}相対替えたものである。前藩主の室^{しつ}や嗣子^{しし}などの住居に使われた。

大崎屋敷は江戸時代を通じて下屋敷として使われた。明暦の大火後池田光政は下谷^{したや}に屋敷地を拝領したが、その地は湿潤であったため替え地を希望、寛文10年(1670)品川宿西北の大崎村に1万1800坪余の拝領地を得た。その後2万6000坪余を買い足して、計3万8000坪の広大な屋敷地となった。下屋敷は火災の時の避難場所や遊覧の地として使用されるほか、花園や菜園としても利用された。

浅草鳥越屋敷は寛永末年に池田家に与えられたという。はじめは光政弟の恒元(のちに分家して^{しそ}栗藩3万石)の江戸屋敷として使われたが、のちに綱政弟政言(分家して鴨方藩)の屋敷になった。

C 江戸での勤役

江戸に屋敷を持つ大名は、幕府から江戸の行政や造営にかかわる勤役を仰せつかることがあった。それは将軍の御恩に対する奉公であった。

例えば、江戸の各所の火消し役もその一つである。岡山藩では綱政の元禄時代に知足院^{ちそくいん}(のちに^{ごじいん}護持院と改名)の火消し番役を務めている。知足院は、将軍秀忠が筑波山別当知足院の江戸別院として建立したもので、代々将軍家の祈祷にあたっていた。綱吉の実母である桂昌院^{けいしょういん}が帰依した隆光^{りゅうこう}が住持になると特別に厚遇され、元禄元年(1688)から岡山藩が火消し役を命じられることになった。藩ではこの番役を務める家臣の詰め所として、三河町にあった人見友元^{とうえいざん}の屋敷を買得した。その後宝永3年(1706)に上野東叡山の火消し役を命じられることになり、翌宝永4年(1707)三河町屋敷も御用地として幕府に召しあげられた。

大名は、江戸城や禁裏御所の修築、大河川の普請工事などを御手伝普請^{おてつだいふしん}として幕府から命じられることもあった。江戸城下でいえば、岡山藩には、江戸城石垣の修復や将軍家ゆかりの東叡山^{とうえいざん}や増上寺^{ぞうじょうじ}での建設工事などが命じられている。

正徳2年(1712)10月、6代将軍家宣が亡くなり、文昭院殿^{ぶんしょういん}と諡^{おくりな}された。その御霊屋^{おたまや}が増上寺に造られることになり、御手伝普請が岡山藩に命じられた。藩では直ちに森川助左衛門を普請奉行として遣わし、ほぼ一年をかけてこれを完成させている。

D さまざまな江戸図

徳川日本の首都であった江戸は、18世紀末には人口100万人を超え、地方から出入りする人びとも多数にのぼった。そうした人びとの便利に供するために、刊本の江戸図が早くから作られていた。その最初のもは寛永年間に刊行された「武州豊島郡江戸庄図」^{ぶしゅうとしまぐんえどしょうず}で、なかでも寛永9年(1632)に再版されたものがよく知られている。この図は、明暦の大火で焼失する以前の江戸城天守閣が大きく描かれていることが特徴である。

ついで重要なのが5枚1組の寛文江戸大絵図である。これは幕府の測量を利用した最初の実測図で、5間(約9^間)が1分(約3^間)に描かれているから、縮尺は3000分の1である。この図は江戸府内だけでなく府外も含み、縮尺・方位とも正確であったから、のちの江戸図に大きな影響を与えた。作者の遠近道因^{おちこちどういん}は版元経師屋加兵衛^{きょうじや}が付けた仮名^{かめい}だといわれる。

延宝8年(1680)には江戸方角安見図が出る。これは先の寛文図を冊子様に仕立てたもので、乾坤2冊、見開き170頁からなっている。1枚もの大絵図よりは扱いやすく、各図に名前が付けられていて、のちの切り絵図の先駆と言ってよいものであった。

享保年間になると須原屋^{すばらや}が分間江戸大絵図を出版するようになり、その後は改訂を繰り返しながら須原屋版が長く刊行江戸図の主流をしめた。須原屋は、明治3年（1870）5月に「東京府内区分絵図」を出版している。

大絵図は扱いにくいので、江戸府内をいくつかの地区に分けて描いた小版の切り絵図が作られるようになる。これだと折りたたんで袂に入れて持ち運び、屋外で開いて見ることもできた。宝暦5年（1755）から刊行が始まった吉文字屋版^{きちもじや}がその最初の出版といってよいようだ。幕末期に版を重ねた近吾堂版^{きんごどう}や尾張屋金鯢堂版^{きんごどう}は、極彩色で見た目も美しいものであったから、広く利用された。

岡山大学 特命教授 倉地克直

A 岡山から江戸へ 参勤交替

1 東西道中之絵図

とうざいどうちゅうのえず

T8-126 1折
年代未詳
49.6 × 33.4 箱入

絹布貼付表紙の豪華な装幀の折本。江戸から肥前五島までが描かれる。江戸から大坂までは陸路、大坂から長崎までは海路で行程が示されている。道は金泥、沿道の描写は絵画的で、宿駅名・名所・宿駅間の距離などが記される。往来する武者行列や庶民の姿も描かれている。藩主のお手元で鑑賞されたものか。広げた全長は約18メートル。



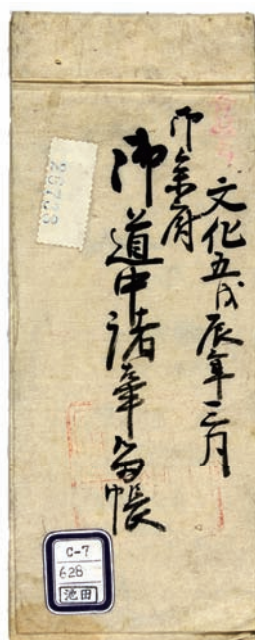
(一部抜粋)

2 御参府御道中諸事留帳

ごさんぶごどうちゅうしよじとめちよう

C7-628 1冊
文化5年(1808)3月
19.3 × 6.9

岡山から江戸への参府道中の行程と役割分担を記した帳面。道中も袖に入れて持ち運べるような小帳に仕立てられている。このときの藩主は池田こちよう齊政なりまさ。3月15日に岡山を出発、美濃路・東海道を通過して4月4日に江戸に着いている。

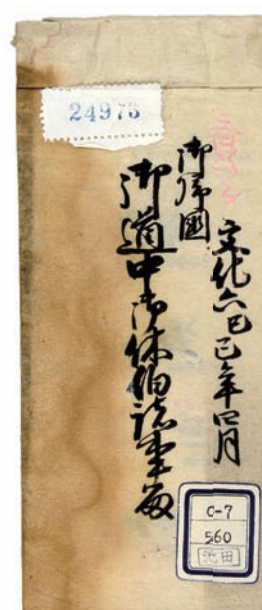


3 御帰国御道中御休泊諸事留

ごきこくごどうちゅうごきゆうはくしよじとめ

C7-560 1冊
文化6年(1809)4月
16.3 × 6.9

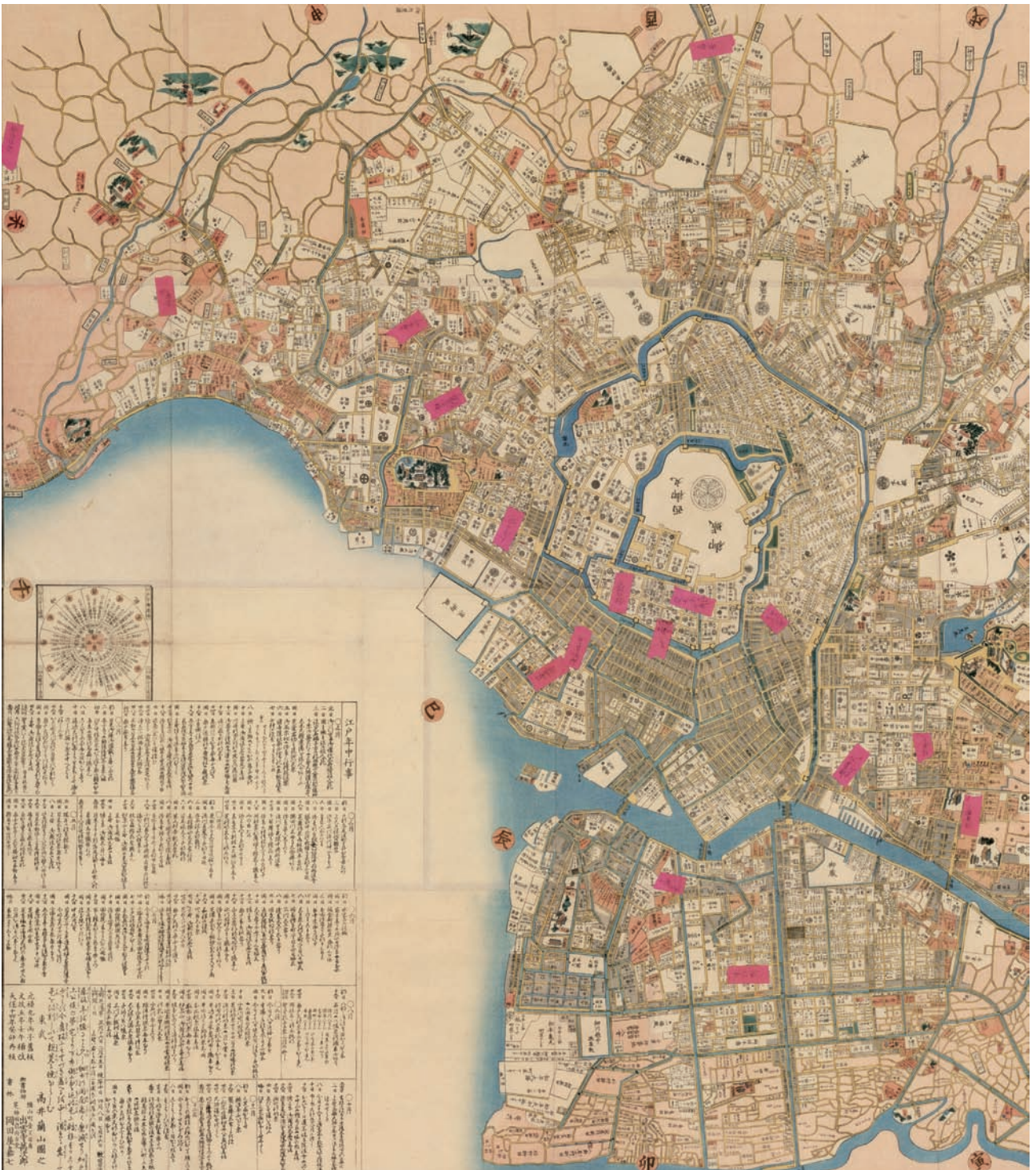
江戸から岡山への帰国道中の行程と役割分担を記した帳面。道中用の小帳仕立て。藩主は同じく池田齊政。4月21日に江戸を出発、中山道を経て5月9日に岡山に着いている。



参考 1 てんぼうかいばんおえどおおえず
天保改版御江戸大絵図 (部分)

T9-79 1 鋪
弘化3年(1846)改正 出雲路万次郎他
121.7 × 133.7 畳紙入

天保改版の江戸大絵図のなかに、17枚の付箋が貼られている。畳紙の貼紙に「此
地図には藩邸所在地を附箋しあり(備藩邸考参照ノ事)」とあり、付箋は『備藩
邸考』に基づいて岡山藩邸の位置を示したものと分かる。明治時代以降に池田
家事務所によって貼られたと思われる。絵図自体は、畳紙書入から江戸時代に
「書方」が管理していたものだと分かる。



4 備藩邸考

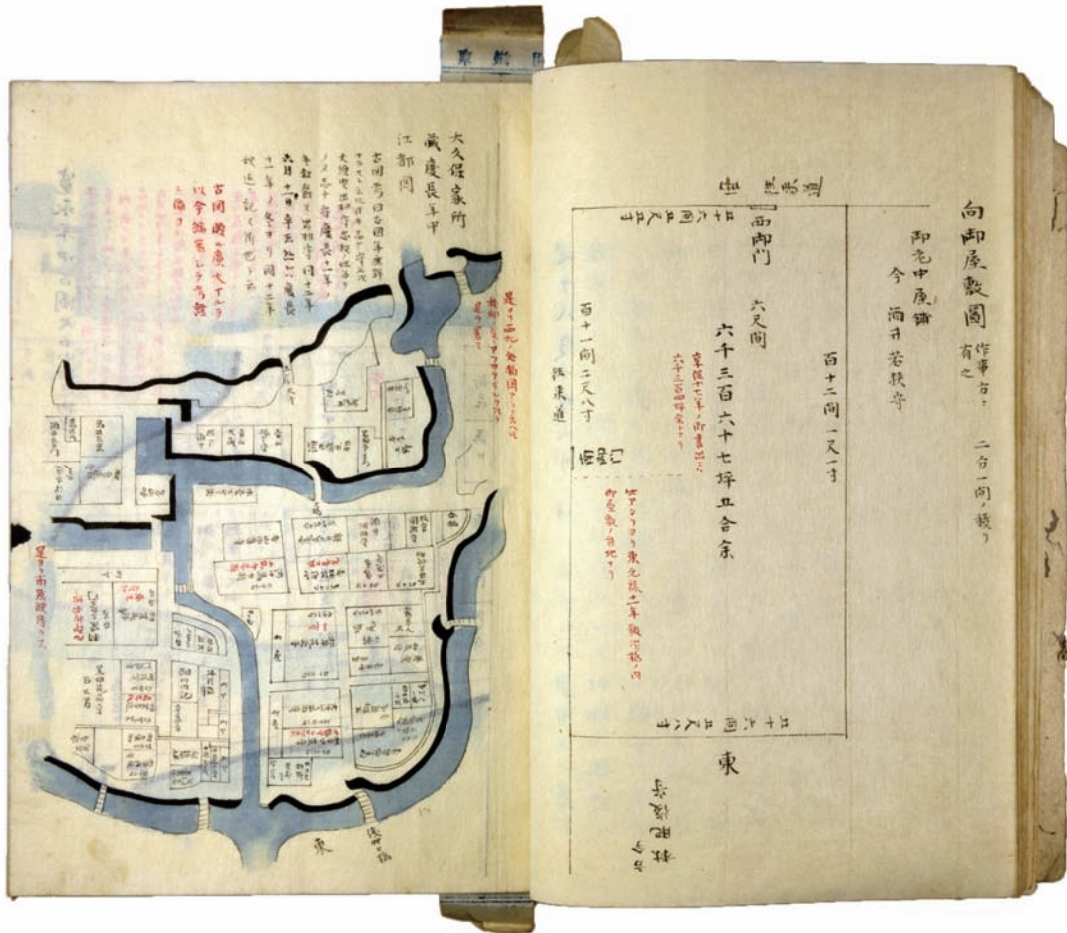
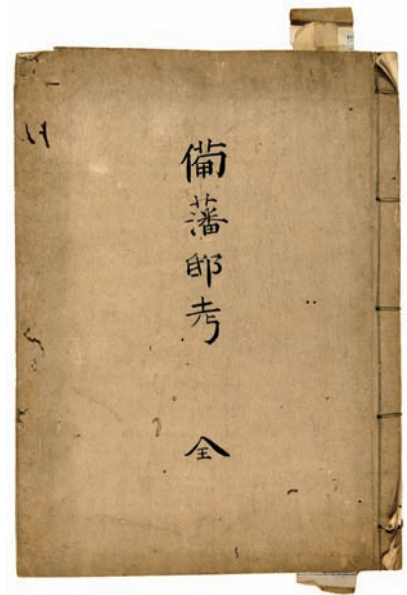
びはんていこう

1冊

文政元年(1818)8月 生駒正直

26.6 × 19.4

岡山藩士の生駒正直が江戸時代初めからの岡山藩江戸屋敷の変遷を調査して著したもの。岡山藩関係の江戸屋敷を知る基本資料である。本資料は長く池田家に所蔵されていて、最近になって岡山大学に寄贈されたもの。生駒の原本かそれに近い写本と思われる。

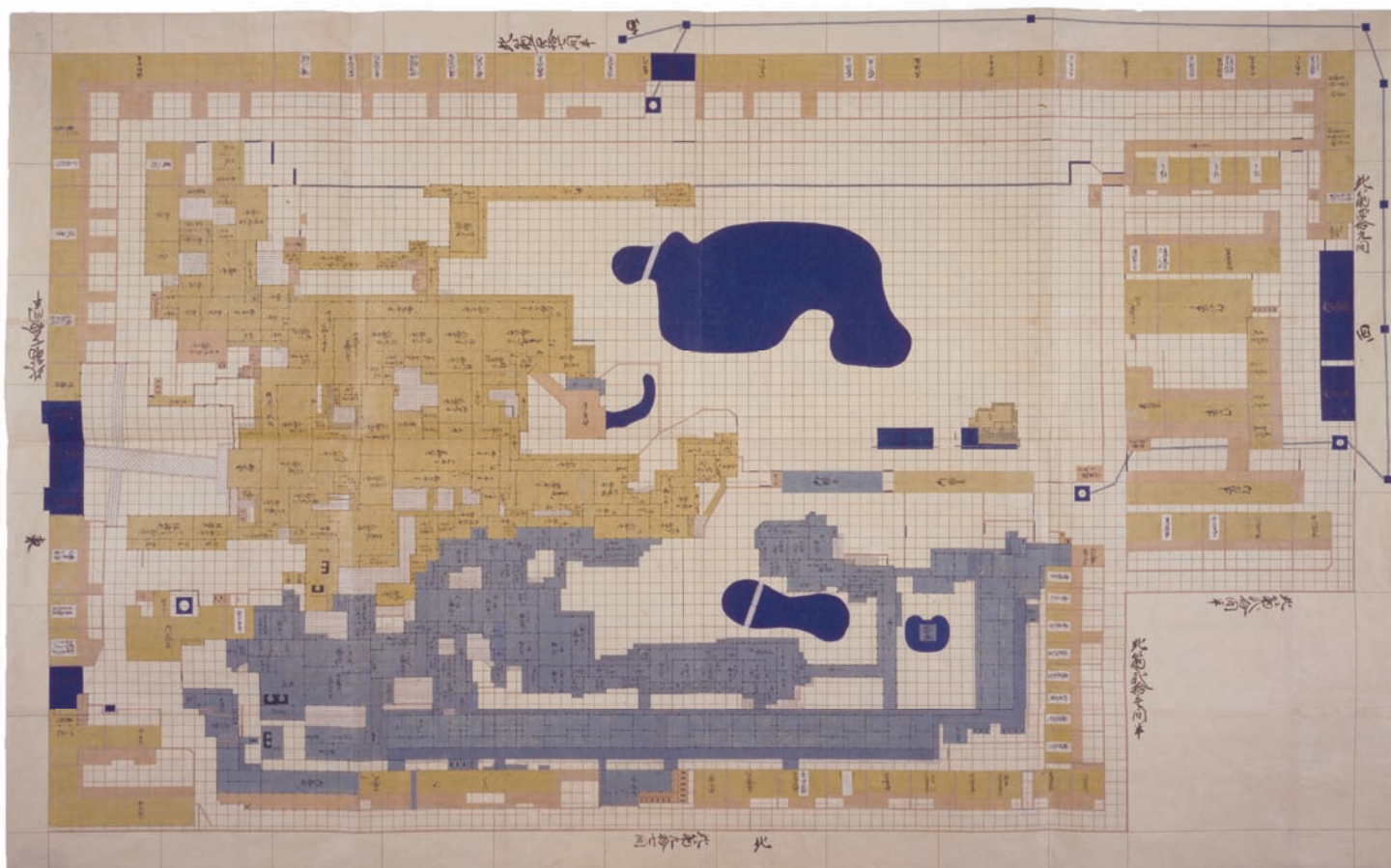


B 岡山藩江戸屋敷

5 江戸御本屋鋪絵図

えどごほんやしきえず
T5-79-1 1鋪
元禄16年(1703)3月
934 × 150.6 袋入

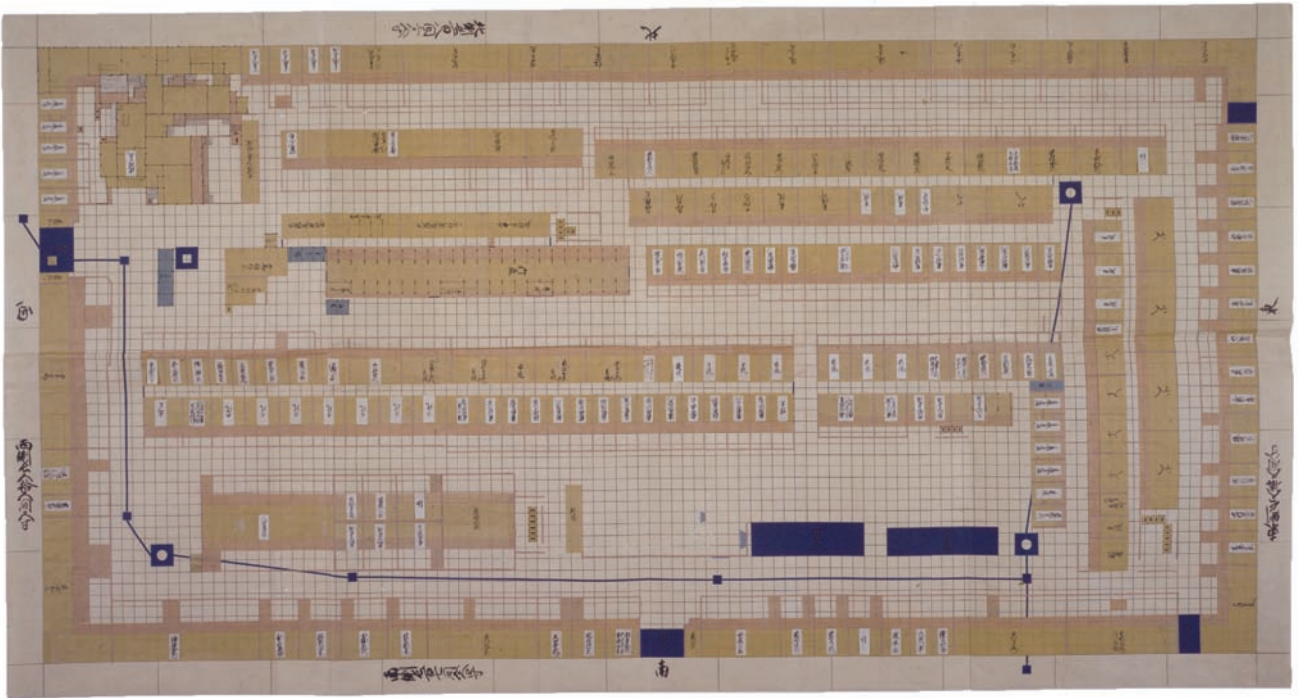
江戸での藩主の居所である本屋敷の平面図。1間(約1.8^間)が4分(約1.2^間)に仕立てられているから、縮尺は150分の1である。広い庭園があるが、能舞台は小書院から観る1つだけで、大書院側にはまだ設けられていない。立派な主屋の廻りを家臣の長屋が取り巻いている。



6 えどむかいおやしきえず
江戸向御屋鋪絵図

T5-79-2 1 鋪
元禄 16 年 (1703) 3 月
73.0 × 137.5 袋入

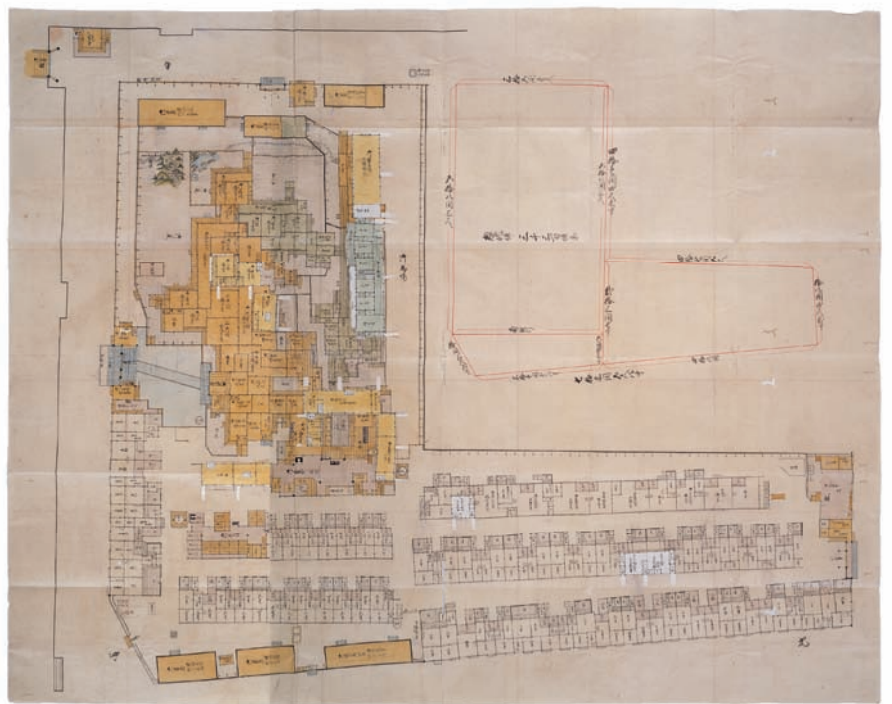
大名小路をはさんで本屋敷の向かいにあった向屋敷の平面図。縮尺は5の絵図に同じ。江戸御供の家老（「池田主殿」「日置左門」）の居所のほか、江戸詰の家臣の居室や徒・足軽・小人などの長屋が建ち並んでいた。射場や大きな厩もあった。



7 つきじおやしきそうえず
築地御屋敷惣絵図

T5-56 1 鋪
年代未詳
140.0 × 176.4 袋入

南門を入ると大きな書院作りの御殿があり、北側には徒・足軽・小人などの長屋が所狭しと建ち並んでいる。惣坪数は3300坪余。



II Source data description

8 江戸大崎御屋敷絵図

えどおおさきおやしきえず

T5-76 1枚

明和9年(1772)10月 鳥羽治郎右衛門

44.4 × 35.2 袋入

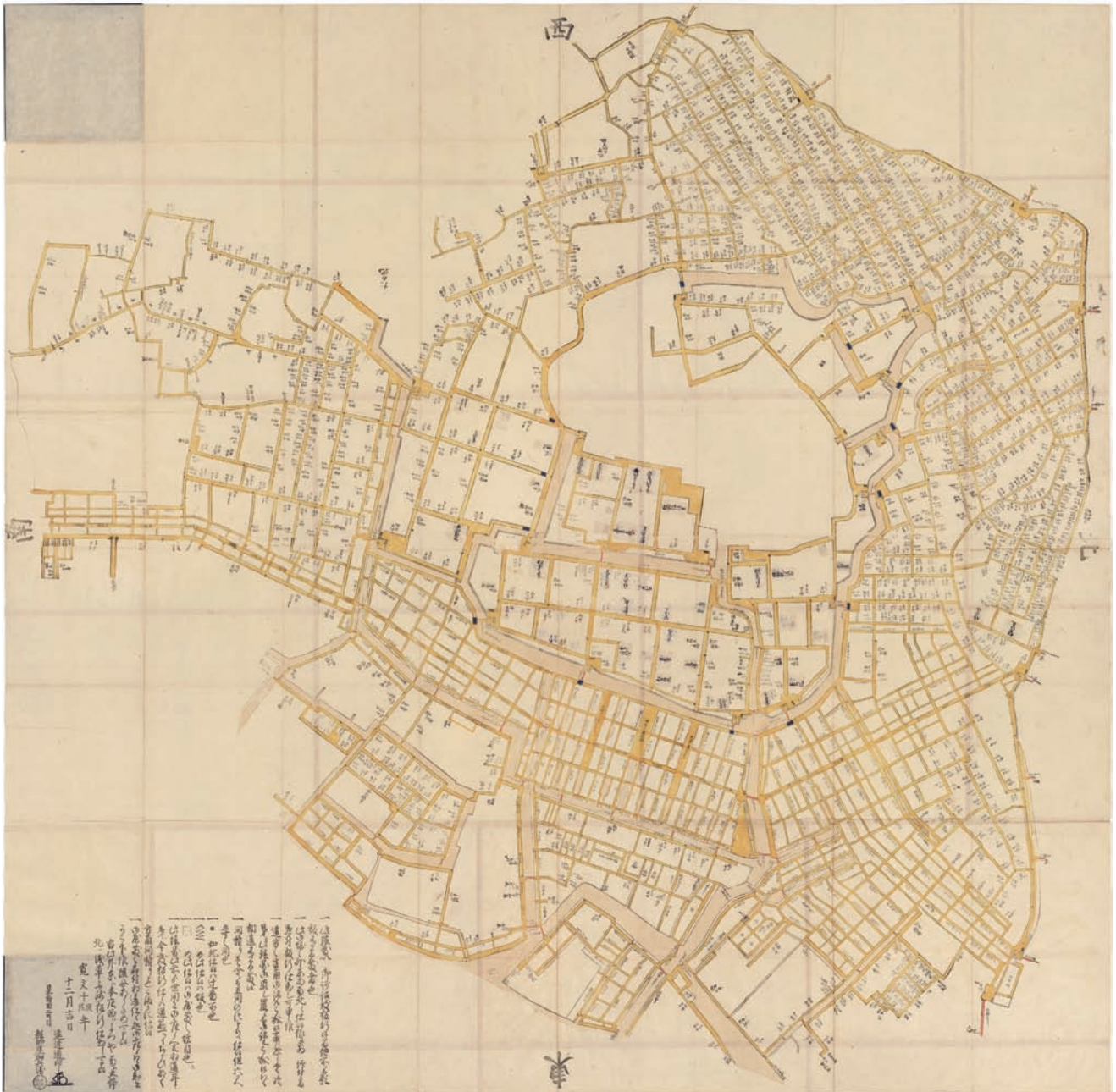
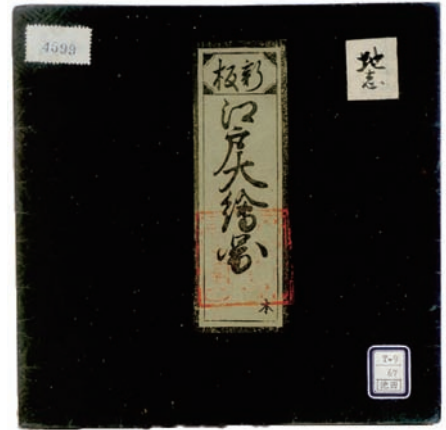
岡山藩下屋敷の図。敷地の中央に書院・内所・台所があり、南半分は林に覆われ、そのなかに長屋がある。北から西にかけては、畑が広がっていた。惣坪数4万5674坪7合8勺は、藩が行った内々の検地によるもの。



9 えどおおえず
江戸大絵図

T9-67 1 鋪
寛文10年(1670)12月 経師屋加兵衛
156.6 × 158.7 箱入

5枚1組の江戸大絵図のうちの1枚。江戸城を中心に、江戸府内を描いている。実測に基づいて地理を正しく表示することに主眼があり、絵画性は極力排されている。



10 えどそとえず あかさか あざぶ しばすじ
江戸外絵図 赤坂・麻布・芝筋

T9-71 1 鋪
寛文13年(1673)2月 経師加兵衛
147.8 × 161.6 箱入

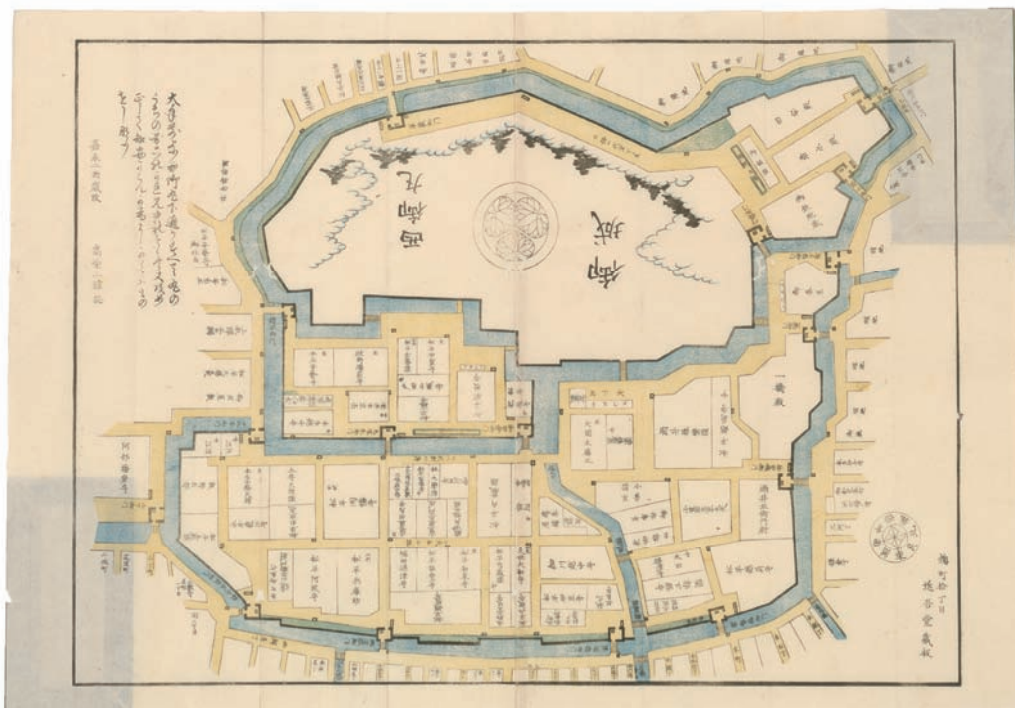
5枚1組の江戸大絵図のうち、4枚の「江戸外絵図」のうちの1枚。他の3枚は、「深川・本所・浅草」、「浅草・染井・小石川」、「小日向・牛込・四ッ谷」で、あわせて江戸府外が広く描かれている。



11 おだみょうこうじたつのくちあたりず
御大名小路辰之口辺図

T9-82 1 枚
嘉永2年(1849) 近吾堂
44.5 × 64.4

近江屋吾平版江戸切絵図(31枚1組)のうちの1枚。大名小路にあった岡山藩本屋敷・向屋敷(「松平内蔵頭」^{くらのかみ})が見える。

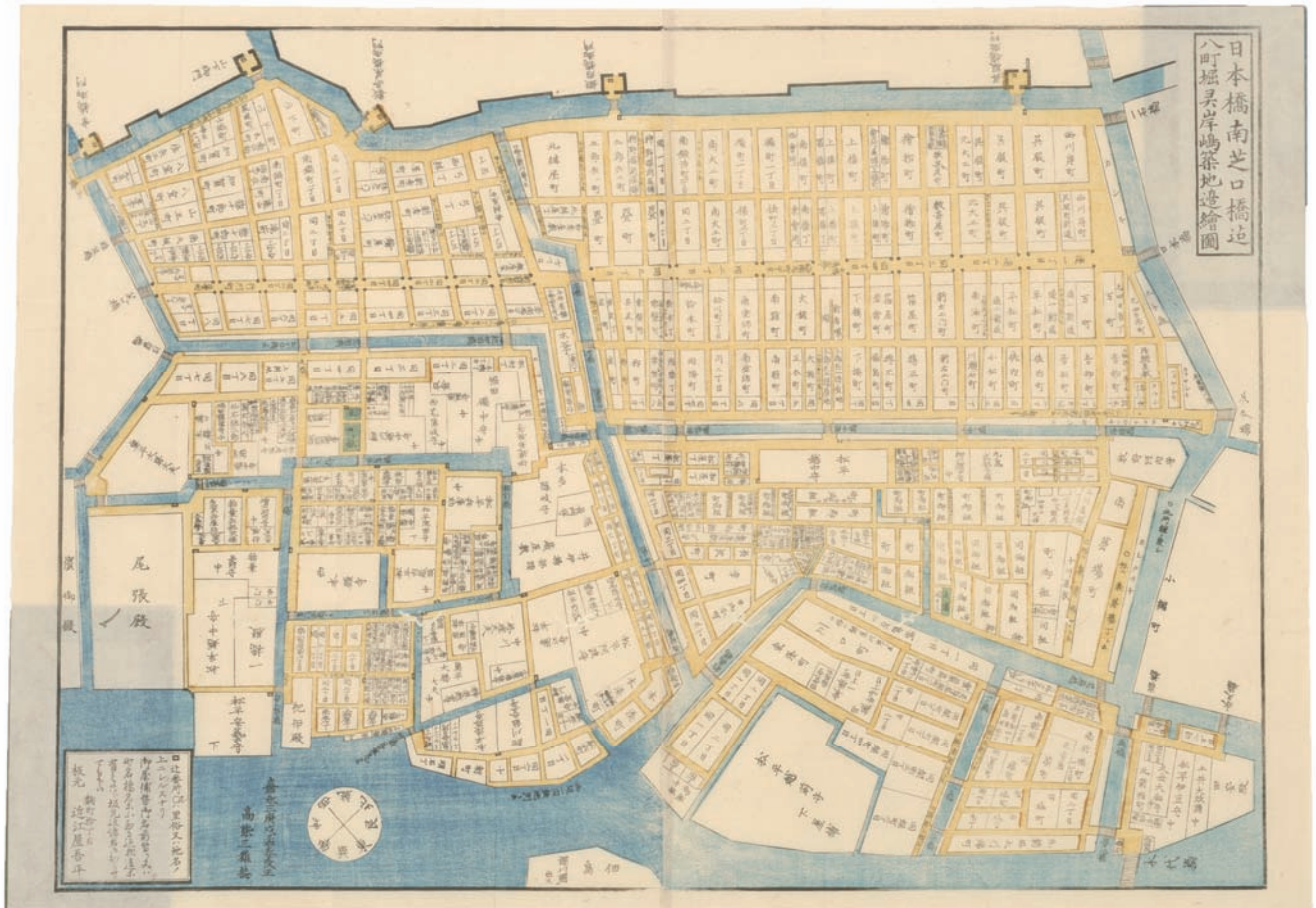


12 日本橋南芝口辺地図

にほんばしみなみしばぐちあたりちず

T9-101 1枚
嘉永3年(1850)1月 近江屋吾平
44.6 × 63.8

近江屋吾平版江戸切絵図(31枚1組)のうちの1枚。西本願寺前にあった岡山藩築地屋敷(「松平内蔵頭 中」)が見える。

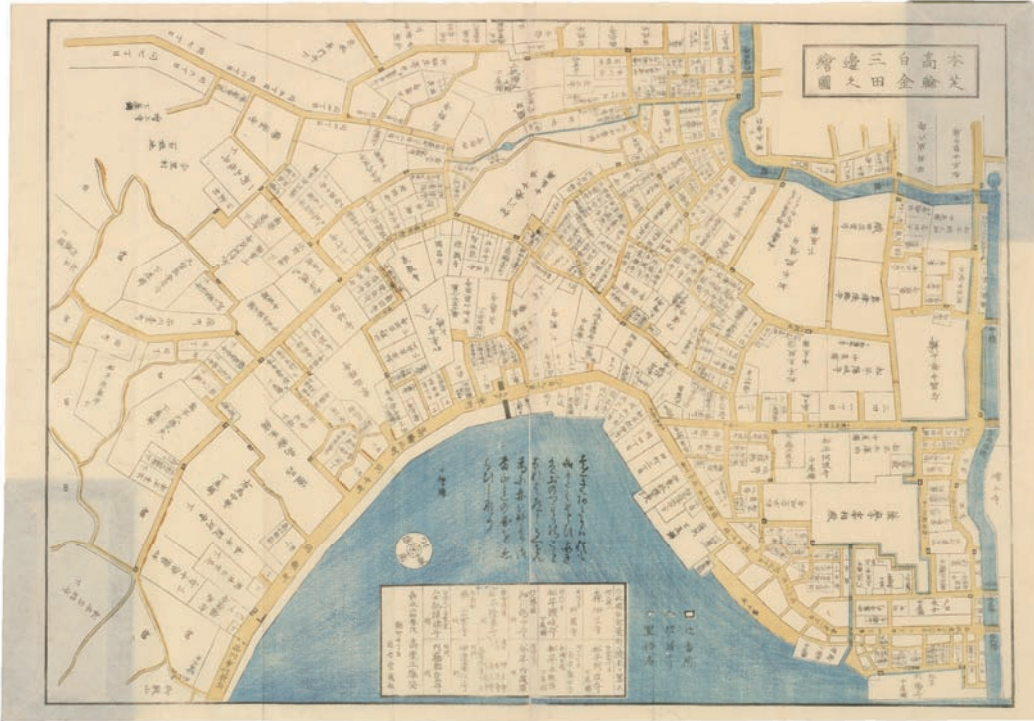


II Source data description

13 ほんしばたかなわしろがねみたあたりのず
本芝高輪白金三田辺之図

T9-109 1枚
嘉永2年(1849)1月 近吾堂
44.5 × 64.4

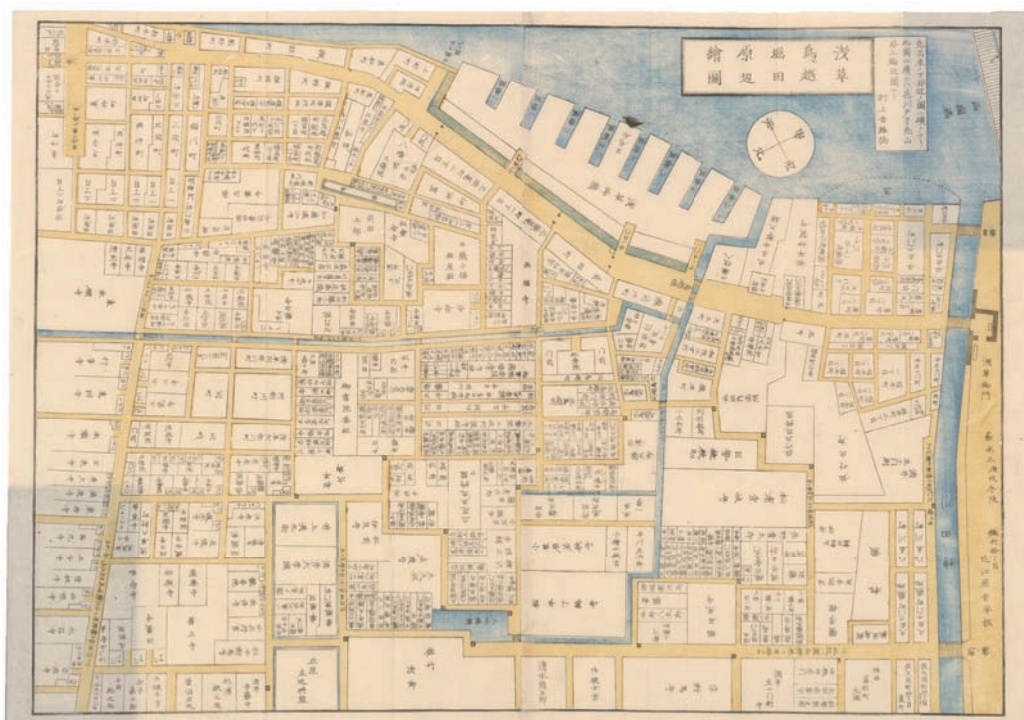
近江屋吾平版江戸切絵図(31枚1組)のうちの1枚。
北に「今里村」と接して岡山藩の大崎屋敷(「松平内蔵頭 下」)が見える。



14 あさくさとりごえほりたはらあたりえず
浅草鳥越堀田原辺絵図

T9-110 1枚
嘉永3年(1850) 近江屋吾平
44.6 × 64.0

近江屋吾平版江戸切絵図(31枚1組)のうちの1枚。池
田家分家鴨方藩(「池田内匠頭^{たくみのかみ}」)の江戸屋敷が見える。



C 江戸での勤役

15 ちそくいんき 知足院記

C6-472-2 1冊
元禄元年（1688）10月
27.8 × 20.4 袋入

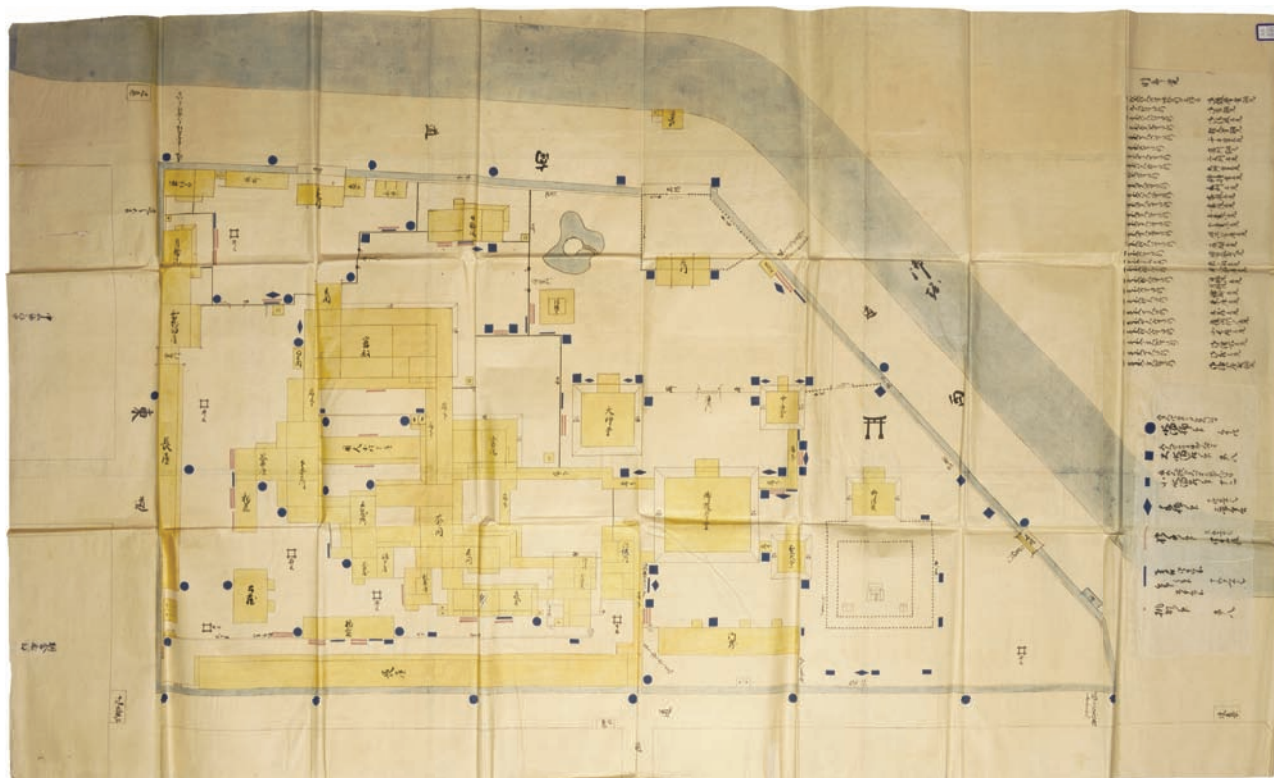
10月15日に知足院火消役を老中から命じられた記事から、翌年5月4日までの勤務状況を日次に記したもので、一件記録5点が「知足院惣指図式通」と表書きされた袋に入られている。



16 ちそくいんそうさしず 知足院惣指図

C6-472-5 1枚
元禄元年（1688）10月
88.1 × 147.9 袋入

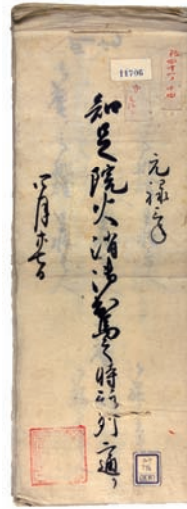
袋に「知足院よりきたる来ル絵図ノ写シ」と記した貼紙がある。図中には、水溜桶、大水溜箱、小水溜箱、手桶、橋子、鳶口などの置き場所が示されている。建物の軒の高さ、屋根の仕様が貼紙に書き上げられている。



ちそくいんひけしごしゅつばのときぎょうれつふたとおり
17 知足院火消御出馬之時行列二通り

C7-734 1冊
元禄3年(1690)4月27日
40.8 × 14.3

見廻りに出動する火消し行列の次第を書き上げたもの。「町宅」
行列と「池田吉左衛門手」の二通りが記されている。



おぼえ
18 覚

C7-738-3 1通
元禄3年(1690)6月18日 土方勝兵衛より伴半兵衛へ
15.8 × 141.1

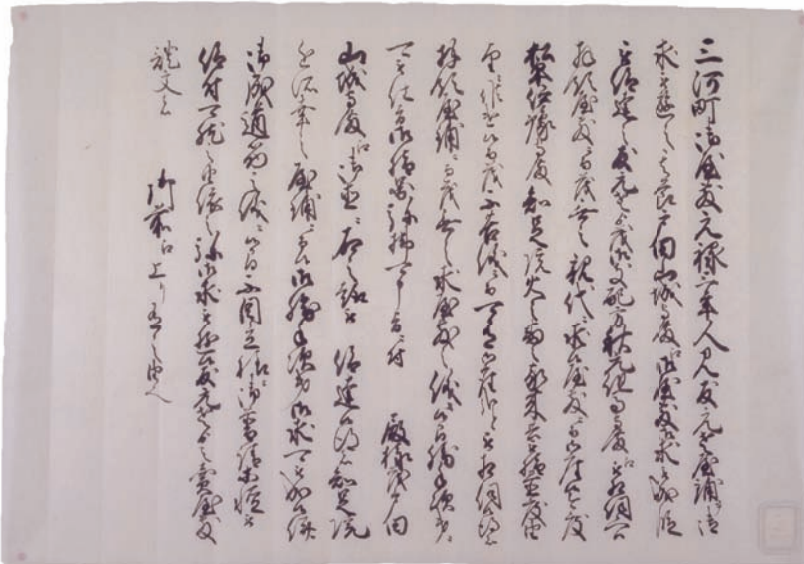
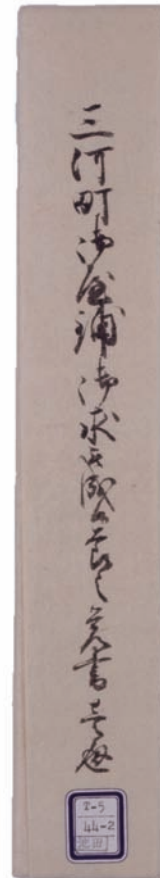
4月23日に火消し役を命じられて町家^{まちや}に詰め、5月22日に交代するまでの勤務状況を報告したもの。知足院式台
まで火廻りを日々勤めている。



みかわちょうおやしきおもとめなされそうろうせつのおぼえがき
19 三河町御屋鋪御求被成候節之覚書

T5-44-2 1通
年代未詳
28.3 × 41.3 包紙入

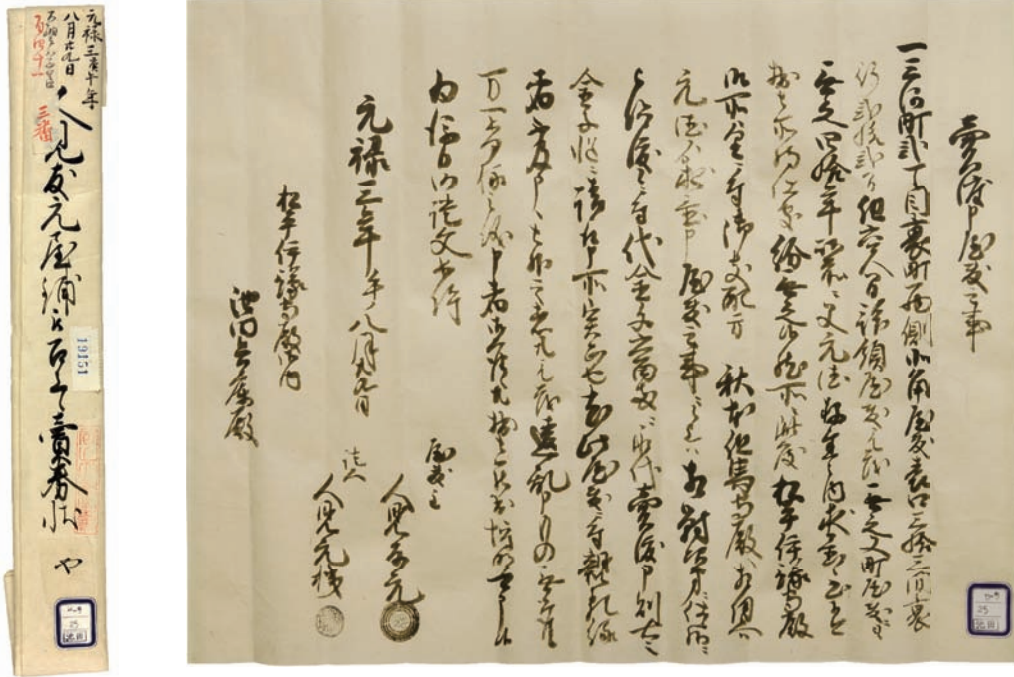
知足院火消番の役人を詰めさせるために、三河町にあつた人見友元屋敷を買得するにあたり、幕閣と交渉した経過を記した覚書。表題は包紙上書による。



ひとみゆうげんやしきめしあげられそうろうばいけんじょう
 20 人見友元屋鋪被召上候売券状

D9-25 1通
 元禄3年(1690)8月29日 人見友元他
 31.0 × 39.6 包紙入

人見友元が所持していた三河町二丁目裏町西側北角屋敷(表口33間・裏行22間)を岡山藩が買得した時の売り渡し証文。代金は1600両であった。



ぞうじょうじにおいておたまやごふしんおてつだいひなみちょう
 21 於増上寺御靈屋御普請御手伝日並帳

M3-1 1冊
 正徳2年(1712)11月
 27.5 × 20.3 畳紙入

増上寺文昭院殿(6代將軍徳川家宣)御靈屋御手伝普請の次第を記した日記。正徳2年11月から翌年10月までの11冊があり、他の冊子とあわせて14冊が一緒に畳紙に納められている。



II Source data description

22 ぞうじょうじおおえず
増上寺大絵図

C7-22 1枚
(正徳2年(1712)11月)
114.2 × 135.5 袋入

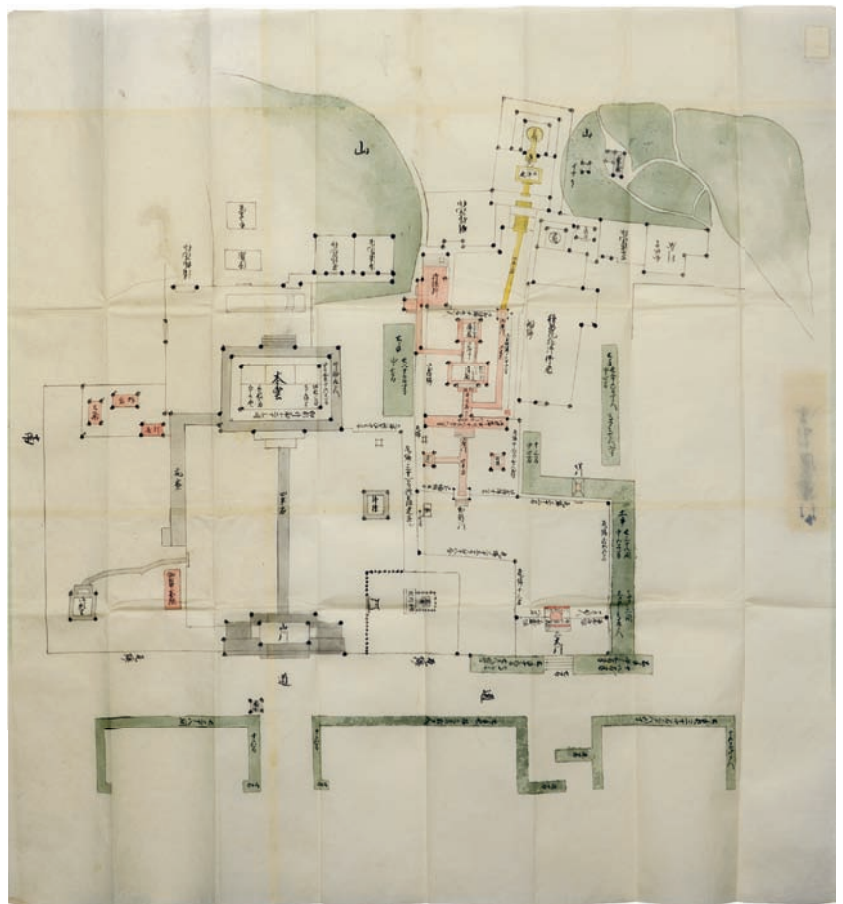
増上寺境内図に今回建設予定の文昭院殿御霊屋が図示されている。本堂向かって右手に描かれているのが、その御霊屋である。



23 おたまやえず
御霊屋絵図

C7-9 1枚
(正徳2年(1712)11月)
59.7 × 57.6 包紙入

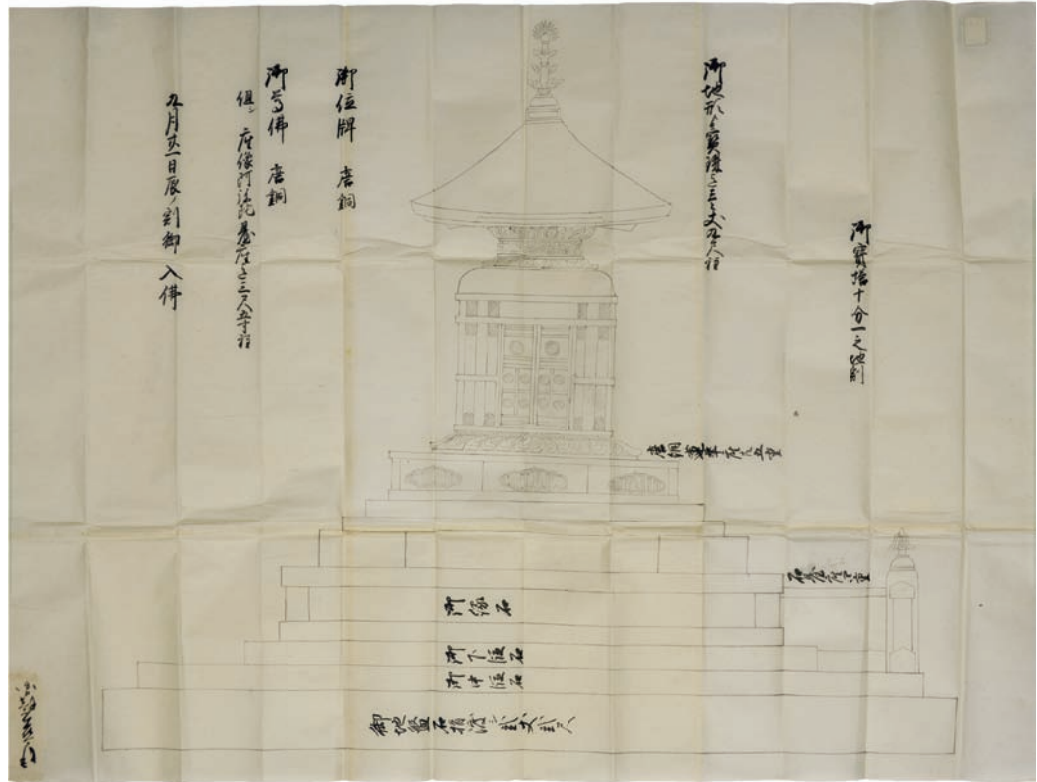
本堂向かって右手に造られる予定の文昭院殿御霊屋を描いた絵図。端裏に「御霊屋絵図」と記した貼紙がある。



24 ごほうとうず
御宝塔図

C7-15 1枚
(正徳3年(1713)9月)
58.7 × 80.5 包紙入

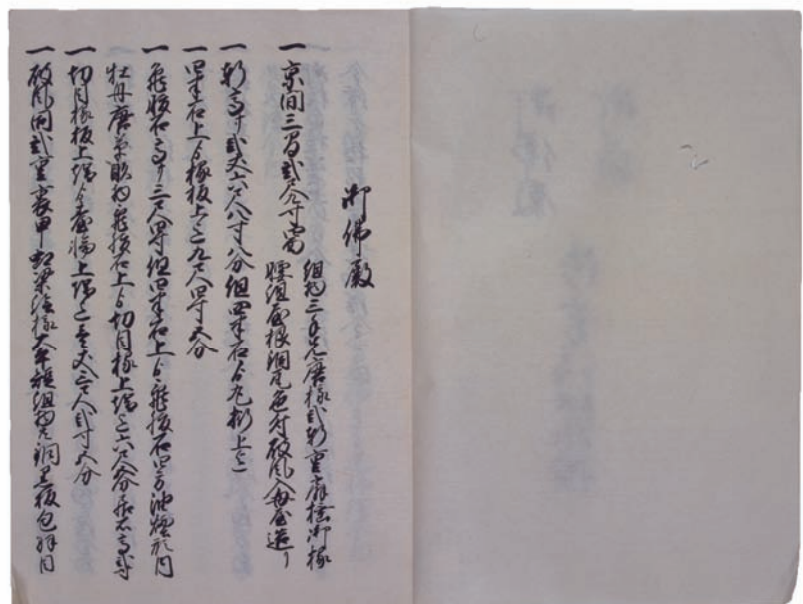
御廟に収められる宝塔の10分の1の地割図。^{からかね}唐銅の位牌と阿弥陀座像が収められた。入仏は正徳3年9月21日とある。



25 ごぶつでんごびょうごふしんしょうちょう
御仏殿御廟御普請仕様帳

T7-50-1 1冊
(正徳2年(1712))
29.1 × 21.4 袋入

建設予定の仏殿・廟など諸建物について、その仕様を細かく指示したもの。この通りに普請することが求められた。

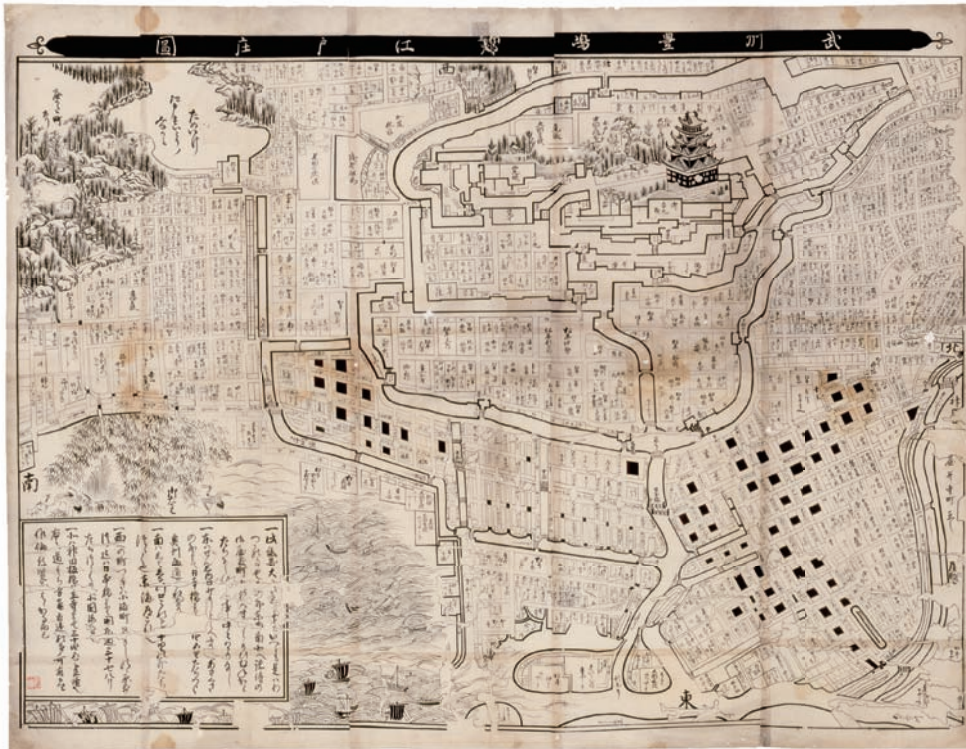


D さまざまな江戸図

26 ぶしゅうとしまぐんえどしょうずうつし 武州豊島郡江戸庄図写

T9-34 1枚
年代未詳
93.8 × 121.5

江戸城天守閣と紅葉山を中心に、北は神田、南は芝増上寺、西は半蔵門外、東は浅草川までを描いている。大名名、橋名、町名などを記す。正確さには欠けるが、最初の本格的江戸図としての意味は大きい。刊本を写した手書き図。



27 えどほうかくやすみず けん こん 江戸方角安見図 乾・坤

T9-60 2冊
延宝8年(1680)
32.0 × 23.2 箱入

寛文の5枚組江戸大絵図が大きすぎて、しかも字は小さく読みにくかったので、それを2冊の冊子にして使いやすくなった図集。寺社などに絵画的描写も増えている。乾は「品川口」から「築飯」まで見開き39図、坤は「すがも関口」から「永代嶋つきじ」まで39図になっている。



参考2 ぶんけんえどおおえず
分間江戸大絵図 (部分)

T9-76 1 鋪
年代未詳 須原茂兵衛
1634 × 177.6

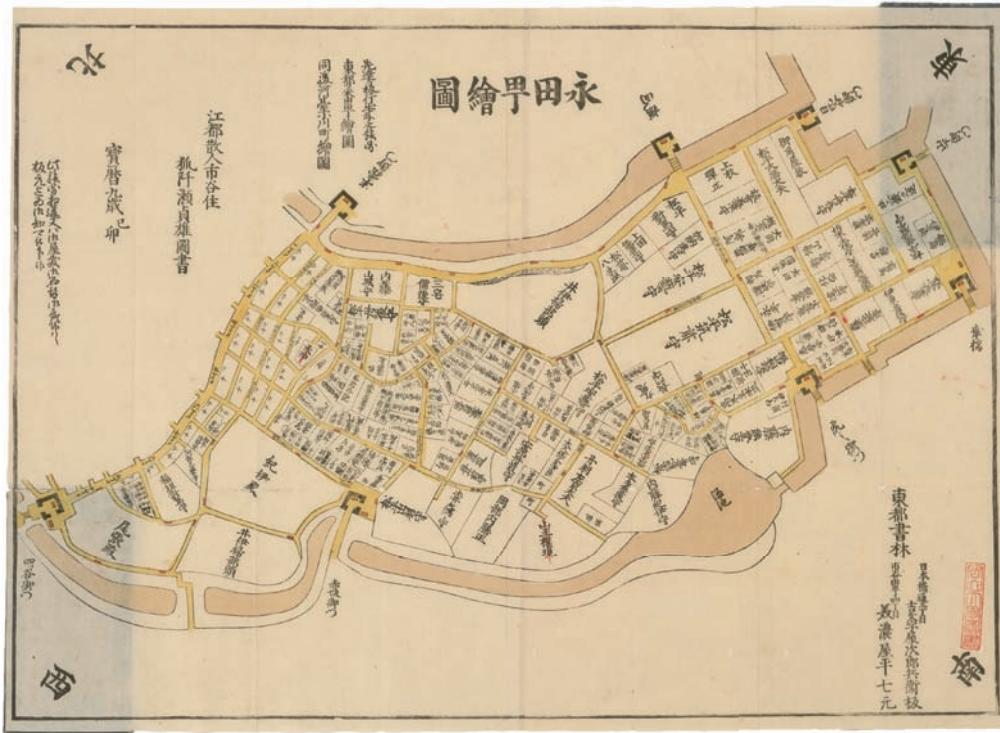
江戸大絵図の代表格である須原屋版の1枚。墨刷りだが手彩色が施されている。池田家文庫には他に、享保5年(1720)版2枚、文化12年(1815)版1枚、天保9年(1838)版1枚、計4枚の須原屋版「分間江戸大絵図」がある。



28 ながたちょうえず
永田町絵図

T9-116 1枚
宝暦9年(1759) 吉文字屋次郎兵衛他
46.1 × 63.9

吉文字屋版の江戸切り絵図は8枚が確認されている。そのうちの1枚。桜田門近くに彦根藩「井伊掃部頭」の屋敷がみえる。



29 したやあさくさえず
下谷浅草絵図

T9-114 1枚
明和4年(1767) 吉文字屋次郎兵衛
47.2 × 64.8

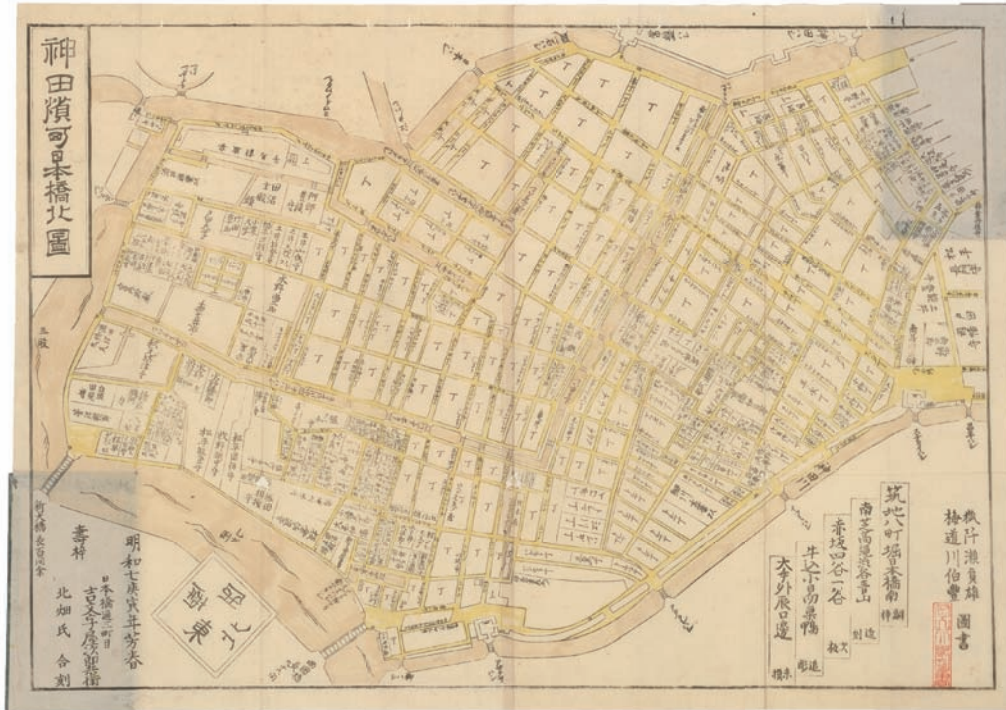
8枚が確認されている吉文字屋版江戸切り絵図のうちの1枚。幕府の浅草御蔵の西に「池田信濃守」の屋敷がみえる。



30 かんだはまちょうにほんばしきたず
神田濱町日本橋北図

T9-115 1枚
明和7年(1770) 芳春 吉文字屋
45.9 × 65.2

8枚が確認されている吉文字屋版江戸切り絵図のうちの1枚。「安藤対馬守」「酒井雅楽頭」「阿部豊後守」など老中屋敷に囲まれて「田沼主殿頭」の名がみえる。



31 つきじはつちょうぼりにほんばしみなみのず
築地八町堀日本橋南之図

T9-113 1枚 安永4年(1775)9月
吉文字屋次郎兵衛
46.5 × 64.7

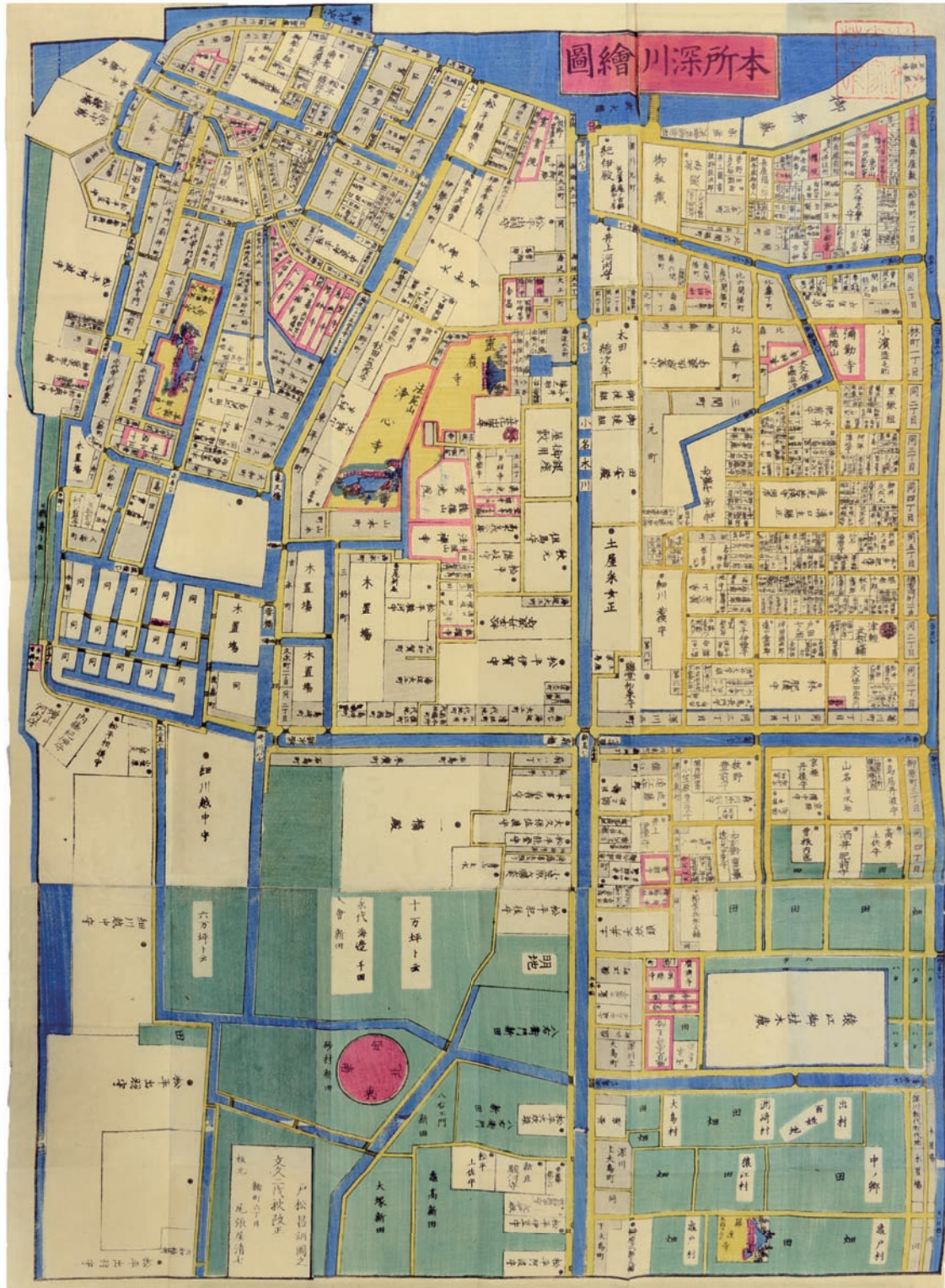
8枚が確認されている吉文字屋版江戸切り絵図のうちの1枚。西本願寺の裏に岡山藩築地屋敷(「松平内蔵頭」)がみえる。



32 ほんじょふかがわえず
本所深川絵図

貴 H1-27 1枚
文久2年(1862)改正 尾張屋清七
73.5 × 52.6 箱入

30枚1組の尾張屋金鯨堂版のうちの1枚。深川には幕府の材木蔵や木場があり、東には新田と大名の下屋敷が広がっていた。この図の右に33の絵図が続く。



ほんじょえず
本所絵図

貴 H1-29 1枚
文久3年(1863)改正 尾張屋清七
73.8 × 52.8 箱入

30枚1組の尾張屋金鯰堂版のうちの1枚。本所は小さな御家人屋敷が軒を連ねている。横川より東はかつての農村部で、農家・町屋・寺院と入り交じって大名の下屋敷が並んでいた。この図の左に32の絵図が続く。



II Source data description

34 しばぐちみなみにしくほあたごしたのず
芝口南西久保愛宕下之図

貴H1-18 1枚
万延2年(1861)改正 尾張屋清七
49.0 × 51.8 箱入

30枚1組の尾張屋金鯢堂版のうちの1枚。増上寺門前町から北へ東海道が江戸府内に向かう。「濱御殿」はいまの浜離宮公園。この図の下に35の絵図がつながる。方位は90°回転している。



II Source data description

35 しばみたにほんえのきたかなわあたりえず
芝三田二本榎高輪辺絵図

貴H1-20 1枚
安政4年(1857)改正 尾張屋清七
36.1 × 72.9 箱入

30枚1組の尾張屋金鯨堂版のうちの1枚。東海道最後の宿である品川宿周辺を描く。御殿山には「桜ノ名所ナリ」とある。この図の右に34の絵図が続く。



参考3 かんばんとうきょうおんえず
官版東京御絵図 (部分)

T9-56 1枚
明治2年(1869)7月 吉田屋又三郎
71.5 × 96.5 包紙入

慶応4年(1868)京都に対して江戸を東京と称することが始まり、明治天皇が行幸すると江戸城は皇居と呼ばれることになった。新政府の役所や公家の屋敷などが皇居の周辺に置かれるようになるが、新政府派の藩邸はそのまま残っている。岡山藩本屋敷は「備前」、向屋敷は「池田タンバ」とあり、周りは「民部省」「弾正台」などに変わっている。



II Source data description

番号	資料名	員数	年代	作者	法量(h×w,cm)	整理番号	備考
A 岡山から江戸へ 参勤交替							
1	東西道中之絵図	1折	未詳		49.6×33.4	T8-126	箱入
2	御参府御道中諸事留帳	1冊	文化5年(1808)3月		19.3×6.9	C7-628	
3	御帰国御道中御休泊諸事留	1冊	文化6年(1809)4月		16.3×6.9	C7-560	
4	備藩邸考	1冊	文政元年(1818)8月	生駒正直	26.6×19.4		
参考1	天保改版御江戸大絵図(部分)	1鋪	弘化3年(1846)改正	出雲路万次郎他	121.7×133.7	T9-79	畳紙入
B 岡山藩江戸屋敷							
5	江戸御本屋鋪絵図	1鋪	元禄16年(1703)3月		93.4×150.6	T5-79-1	袋入
6	江戸向御屋鋪絵図	1鋪	元禄16年(1703)3月		73.0×137.5	T5-79-2	袋入
7	築地御屋敷惣絵図	1鋪	未詳		140.0×176.4	T5-56	袋入
8	江戸大崎御屋敷絵図	1枚	明和9年(1772)10月	鳥羽治郎右衛門	44.4×35.2	T5-76	袋入
9	江戸大絵図	1鋪	寛文10年(1670)12月	経師屋加兵衛	156.6×158.7	T9-67	箱入
10	江戸外絵図 赤坂・麻布・芝筋	1鋪	寛文13年(1673)2月	経師加兵衛	147.8×161.6	T9-71	箱入
11	御大名小路辰之口辺図	1枚	嘉永2年(1849)	近吾堂	44.5×64.4	T9-82	
12	日本橋南芝口辺地図	1枚	嘉永3年(1850)1月	近江屋吾平	44.6×63.8	T9-101	
13	本芝高輪白金三田辺之図	1枚	嘉永2年(1849)1月	近吾堂	44.5×64.4	T9-109	
14	浅草鳥越堀田原辺絵図	1枚	嘉永3年(1850)	近江屋吾平	44.6×64.0	T9-110	
C 江戸での勤役							
15	知足院記	1冊	元禄元年(1688)10月		27.8×20.4	C6-472-2	袋入
16	知足院惣指図	1枚	元禄元年(1688)10月		88.1×147.9	C6-472-5	袋入
17	知足院火消御出馬之時行列二通り	1冊	元禄3年(1690)4月27日		40.8×14.3	C7-734	
18	覚	1通	元禄3年(1690)6月18日	土方勝兵衛より伴半兵衛へ	15.8×141.1	C7-738-3	
19	三河町御屋鋪御求被成候節之覚書	1通	未詳		28.3×41.3	T5-44-2	包紙入
20	人見友元屋鋪被召上候売券状	1通	元禄3年(1690)8月29日	人見友元他	31.0×39.6	D9-25	包紙入
21	於増上寺御霊屋御普請御手伝日並帳	1冊	正徳2年(1712)11月		27.5×20.3	M3-1	畳紙入
22	増上寺大絵図	1枚	(正徳2年(1712)11月)		114.2×135.5	C7-22	袋入
23	御霊屋絵図	1枚	(正徳2年(1712)11月)		59.7×57.6	C7-9	包紙入
24	御宝塔図	1枚	(正徳3年(1713)9月)		58.7×80.5	C7-15	包紙入
25	御仏殿御廟御普請仕様帳	1冊	(正徳2年(1712))		29.1×21.4	T7-50-1	袋入
D さまざまな江戸図							
26	武州豊島郡江戸庄図写	1枚	未詳		93.8×121.5	T9-34	
27	江戸方角安見図 乾・坤	2冊	延宝8年(1680)		32.0×23.2	T9-60	箱入
28	永田町絵図	1枚	宝暦9年(1759)	吉文字屋次郎兵衛他	46.1×63.9	T9-116	
29	下谷浅草絵図	1枚	明和4年(1767)	吉文字屋次郎兵衛	47.2×64.8	T9-114	
30	神田濱町日本橋北図	1枚	明和7年(1770)芳春	吉文字屋	45.9×65.2	T9-115	
31	築地八町堀日本橋南之図	1枚	安永4年(1775)9月	吉文字屋次郎兵衛	46.5×64.7	T9-113	
32	本所深川絵図	1枚	文久2年(1862)改正	尾張屋清七	73.5×52.6	貴H1-27	箱入
33	本所絵図	1枚	文久3年(1863)改正	尾張屋清七	73.8×52.8	貴H1-29	箱入
34	芝口南西久保愛宕下之図	1枚	万延2年(1861)改正	尾張屋清七	49.0×51.8	貴H1-18	箱入
35	芝三田二本榎高輪辺絵図	1枚	安政4年(1857)改正	尾張屋清七	36.1×72.9	貴H1-20	箱入
参考2	分間江戸大絵図(部分)	1鋪	未詳	須原茂兵衛	163.4×177.6	T9-76	
参考3	官版東京御絵図(部分)	1枚	明治2年(1869)7月	吉田屋又三郎	71.5×96.5	T9-56	包紙入

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム

記念講演会・パネルディスカッション

年度	記念講演会	記念講演会講師 (役職は当時)	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日

年度	パネルディスカッション	パネラー・司会	期日
平成23	国絵図復活	東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 [司会] 東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年11月23日